

アクティブ・ラーニング導入による教師の変容過程に関する事例的研究 ～新任、ベテラン教師を比較して～

教育実践高度化専攻
教育実践リーダーコース
重岡 慧

I 問題の所在

文部科学省(2016)は、「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめについて(報告)」において、「主体的・対話的で深い学び」が実現するように、日々の授業を改善していくための視点を共有し、授業改善に向けた取り組みを活性化しようとするのが「アクティブ・ラーニング」の視点であると述べている。また、「アクティブ・ラーニング」は一人一人の個性に応じた多様で質の高い学びを意図するものであり、さらに、それを通してどのような資質・能力を育むかという観点から、学習の在り方そのものの問い直しを目指すものとしている¹⁾。

西川(2015)は、アクティブ・ラーニングの手法の1つとして『学び合い』による授業を提案している²⁾。西川(2011)が提唱する『学び合い』とは、授業において、主体的・協働的に学ぶ学習集団づくりを目指す学習デザインの1つであり、学習者の相互関係を重視した学習である³⁾。

山田(2007)は子どもの主体的な活動を通して子どもの有能性を実感した教師は、子どもを受容し、子ども主体の接し方をするようになり、他教科の授業においても、子ども主体の授業スタイルを実践していくと述べている⁴⁾。

谷内ら(2009)は、『学び合い』を導入した教師の変容を分析し、教師の役割を指導者から支援者と捉えるようになることを明らかにしている。また、『学び合い』が活性化するために「個」か

ら「集団」を意識した発話へと変容すると述べている⁵⁾。

しかし、『学び合い』を知らなかったベテラン教師、新任教師が『学び合い』を導入に至るまでの発話における変容、また二人の教師の変容に差異が見られるのか着目した研究はなされていない。

II 研究目的

本研究では、『学び合い』を取り入れようとするベテラン教師と新任教師の変容を明らかにすること、また教職年数の違う教師が変容に至るまでの条件に差異が発生するのか、解明することを目的とする。

III 研究方法

1 調査対象

X県J市立Y小学校3・4年生(複式学級11名)

担任:A教諭(教職歴18年)

同校2年生(7名)、担任:B教諭(教職歴1年)

※2人の教師は『学び合い』を見たことがない。

2 調査実施期間

平成27年10月～12月

平成28年10月～12月

3 調査方法

- (1) 『学び合い』授業の際、教師と子どもに1人1台ずつ、ボイスレコーダーをつけ、発話を記録する。
- (2) ビデオカメラ2台で授業が行われる教室全体の様子を対角線上から記録する。
- (3) 授業後の振り返りなど、学級担任と会話する際にボイスレコーダーを装着し、発話を記録する。
- (4) ボイスレコーダーで記録した発話を文字起こす。

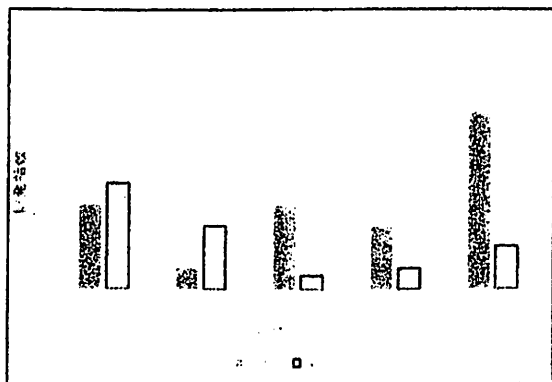
IV 分析方法

- (1) 2人の教師の授業中の発話を三石(2012)のカテゴリー⁷⁾に準拠し分類する。

三石(2012)に準拠したカテゴリー

- ①目標
- ②可視化
- ③肯定・賞賛
- ④課題
- ⑤促し
- ⑥時間
- ⑦その他

表1 新任教諭 可視化・課題における発話数 変容の事例



- (2) 2人の教師との授業前、授業後の懇談の発話をポズナー(1982)の概念転換の諸条件⁸⁾を基に発話を抽出する。

ポズナー(1982)概念転換の諸条件

- ① 既存概念に不満があること
- ② 最低限理解できること
- ③ もっともらしいと感ずること
- ④ 生産的であること

V 結果と考察

『学び合い』による授業を参観した2人の教師は、授業中の発話が先行研究同様、「個」から「集団」に変容することが明らかとなった。しかし、変容するまでの時間に差異が見られた。また、概念が変容に至った条件に関してベテラン教師と新任教師に差異がないことが明らかとなった。

引用・参考文献

- 1) 文部科学省：「次期指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめについて（報告）」、2016. http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/gaiyou/1377051.htm
- 2) 西川純：「すぐわかる！できる！アクティブラーニング」、16-31, 学陽書房, 2015.
- 3) 西川純：『『学び合い』スタートブック』, 42-61, 学陽書房, 2010.
- 4) 小林千鶴, 西川純：「子ども同士の『学び合い』を促す教師に関する研究」, 臨床教科教育学会誌, 7(1), 17-54, 2007.
- 5) 山田純一, 西川純：「子どもの有能性を実感した教師の変容」, 臨床教科教育学会誌, 7(1), 103-126, 2007.
- 6) 谷内香織, 西川純：『『学び合い』授業における教師の変容に関する研究 - 『学び合い』導入からの長期観察を通して - 』, 臨床教科教育学会誌, 9(1), 85-96, 2009.
- 7) 三石梨沙, 三崎隆 「教師の『学び合い』経験年数とその言動に関する事例研究」 臨床教科教育学会誌 12(2), 83-90, 2012.
- 8) ウェスト, パインズ [編]; 野上智行[ほか]訳; 進藤公夫監訳：「認知構造と概念転換」, 東洋館出版社, 1994.